

設定木現況表

(調査プロット)

無除伐区

平成10年1月

樹種	胸高径 (cm)	樹高 (m)	枝下高 (m)	本数	備考
イイギリ	1. 8	2. 8	1. 9	3	
イス	1. 4	3. 0	1. 3	9 0	
イタジイ	6. 3	6. 4	1. 7	1	
イヌマキ	1. 1	2. 0	1. 2	2 4	
ウラジロガシ	2. 0	3. 5	1. 4	3	
エゴノキ	2. 6	4. 3	2. 0	1 5	
クロキ	2. 6	4. 2	1. 9	6	
コジイ	3. 9	4. 9	1. 7	1 0 3	
サクラ	2. 2	4. 1	1. 9	3 1	
シロダモ	1. 9	3. 1	1. 3	2 1	
セندان	3. 1	4. 0	2. 2	1	
タブノキ	2. 5	3. 7	1. 6	3 4	
タラヨウ	1. 1	2. 2	1. 2	1	
ツバキ	1. 4	2. 6	1. 2	8	
ネズミモチ	2. 1	3. 6	1. 6	1 4	
ハイノキ	1. 7	3. 1	1. 5	1	
ハナカガシ	2. 8	4. 6	1. 4	1	
ホルトノキ	3. 5	3. 5	1. 2	1	
マユミ	3. 8	3. 9	1. 9	3	
ミズキ	2. 0	3. 3	1. 8	1 4	
モッコク	2. 0	3. 5	1. 5	8	
ヤブニッケイ	1. 8	3. 0	1. 3	1 7	
ヤマビワ	2. 8	3. 9	1. 6	1 3	
ユズリハ	2. 1	3. 5	1. 4	5	
リンボク	2. 5	3. 7	1. 5	4	
コウ2	4. 0	4. 2	1. 8	2 9	
計				4 5 1	

設定木現況表

(調査プロット)

ぼう 芽 3 本 保 残 区					平成 1 0 年 1 月	
樹 種	胸 高 径 (cm)	樹 高 (m)	枝 下 高 (m)	本 数	備 考	
アラカシ	2. 8	4. 7	2. 1	7		
イスノキ	1. 1	2. 6	1. 2	6 4		
イヌマキ	0. 5	1. 5	1. 2	1		
ウラジロガシ	1. 5	3. 2	1. 5	1 8		
エゴノキ	1. 8	3. 3	1. 5	2		
クワ	1. 4	3. 1	2. 0	8		
コジイ	4. 5	6. 8	2. 8	1 3		
サクラ	2. 0	4. 0	2. 0	3 4		
シラカシ	4. 6	6. 1	2. 5	3		
タブノキ	5. 2	5. 2	2. 0	4		
ツクバネガシ	2. 0	4. 3	1. 7	5		
ツバキ	1. 4	2. 6	1. 2	5		
ニガキ	4. 2	5. 2	3. 2	4		
ハナガガシ	3. 1	4. 8	2. 0	6		
ホソバタブ	3. 1	3. 5	1. 3	2		
ミズキ	2. 7	4. 8	2. 2	6		
リンボク	2. 5	3. 5	1. 9	3		
計				1 8 5		

平成9年度技術開発実施報告書

様式2-2

No.1

課題名	天然林の優良林分造成の実験林設定（除間伐）																																				
課題区分	自主課題	開発箇所	去川国有林 253は林小班	開発期間	平成9年度 ～ 平成58年度																																
当年度別実施計画			当年度実施報告																																		
<p>1, 試験地設定</p> <p>2, 除伐作業</p> <p>3, 設定木現況調査</p> <p>4, 林分構成調査</p> <p>5, 試験地表示</p> <p>6, 除伐工期調査（人工数）</p>	<p>1, 試験地設定</p> <table border="1" data-bbox="890 651 1408 869"> <thead> <tr> <th>作業方法区</th> <th>面積(ha)</th> <th>調査7°プロット</th> <th>自主7°プロット</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ほう芽1本保残区</td> <td>0.58</td> <td>0.04</td> <td>0.04</td> </tr> <tr> <td>ほう芽2本保残区</td> <td>0.51</td> <td>0.04</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ほう芽3本保残区</td> <td>0.62</td> <td>0.04</td> <td>0.01</td> </tr> <tr> <td>対象区(無除伐区)</td> <td>0.47</td> <td>0.04</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>2.18</td> <td>0.16</td> <td>0.05</td> </tr> </tbody> </table> <p>各保残区毎周囲ペンキ標示 各プロット内調査木：標示ラベルにて一連番号をもって試験木に下げ標示</p> <p>2, 除伐作業 保残木（有用広葉樹）以外全刈。ただし、有用広葉樹の生立本数の少ない箇所は、樹冠配置を考慮して除伐対象木も保残</p> <p>3, 設定木現況調査 胸高径：mm単位 樹高：10cm単位 枝下高：10cm単位 通直性調査（矢高）：cm単位</p> <p>4, 林分構成調査 プロットを標準地として、標準地調査法で実施 調査項目：樹種別本数材積 別紙による</p> <p>5, 試験地表示 全体標示看板2基(1.5m×2.0m)(0.6m×0.4m)</p> <p>6, 除伐工期調査（人工数） 調査方法：時間観測法（各本数区毎実施） 平成10年1月実施</p> <table border="1" data-bbox="890 1756 1276 1973"> <thead> <tr> <th>作業方法区7°プロット</th> <th>工期人/区</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ほう芽1本保残区調査7°プロット</td> <td>14.6</td> </tr> <tr> <td>ほう芽1本保残区自主7°プロット</td> <td>12.5</td> </tr> <tr> <td>ほう芽2本保残区調査7°プロット</td> <td>13.9</td> </tr> <tr> <td>ほう芽3本保残区調査7°プロット</td> <td>18.1</td> </tr> <tr> <td>ほう芽3本保残区自主7°プロット</td> <td>13.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>除伐作業延人工数：44.375人</p>	作業方法区	面積(ha)	調査7°プロット	自主7°プロット	ほう芽1本保残区	0.58	0.04	0.04	ほう芽2本保残区	0.51	0.04		ほう芽3本保残区	0.62	0.04	0.01	対象区(無除伐区)	0.47	0.04		計	2.18	0.16	0.05	作業方法区7°プロット	工期人/区	ほう芽1本保残区調査7°プロット	14.6	ほう芽1本保残区自主7°プロット	12.5	ほう芽2本保残区調査7°プロット	13.9	ほう芽3本保残区調査7°プロット	18.1	ほう芽3本保残区自主7°プロット	13.3
作業方法区	面積(ha)	調査7°プロット	自主7°プロット																																		
ほう芽1本保残区	0.58	0.04	0.04																																		
ほう芽2本保残区	0.51	0.04																																			
ほう芽3本保残区	0.62	0.04	0.01																																		
対象区(無除伐区)	0.47	0.04																																			
計	2.18	0.16	0.05																																		
作業方法区7°プロット	工期人/区																																				
ほう芽1本保残区調査7°プロット	14.6																																				
ほう芽1本保残区自主7°プロット	12.5																																				
ほう芽2本保残区調査7°プロット	13.9																																				
ほう芽3本保残区調査7°プロット	18.1																																				
ほう芽3本保残区自主7°プロット	13.3																																				

平成9年度技術開発実施報告書

様式2-2

No.2

<p>課題名</p>	<p>天然林の優良林分造成の実験林設定（除間伐）</p>				
<p>課題区分</p>	<p>自主課題</p>	<p>開発箇所</p>	<p>去川国有林 253は林小班</p>	<p>開発期間</p>	<p>平成9年度 ～ 平成58年度</p>
<p>当年度別実施計画</p>			<p>当年度実施報告</p>		
<p>7, 実施結果</p>			<p>7, 実施結果 育成天然林施業の指針とするため今回除伐を実施 有用樹として保残した樹種は、現在木材市場で取引されている樹種を基本的には保残したが、有用樹の生立本数の少ない箇所は、樹冠配置を考慮しアカメガシワ等の除伐対象木を保残した。また、保残木の中でも当試験地の主林木であるコジイ等は、生長が旺盛なため他の有用樹との競合を阻害するのではないかと考え大径木を除伐し小径木を保残した。</p>		